

# わらびて



2021年の世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つ、一戸町の御所野遺跡で9月15日、国連教育科学文化機関の諮問機関イコモスの現地調査が行われ、海外から調査員1人が縄文の風景を今に残す遺跡の状態を確認しました。

(特集記事が6～7ページにあります。)

## 主な内容

- ◆令和2年度の発掘調査成果  
(公財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター
- ◆注目された遺跡
- ◆世界遺産登録へ高まる期待  
(一戸町御所野遺跡)
- ◆福島県復興調査担当者からの報告

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

## (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 令和2年度の調査の成果

令和2年度の発掘調査は、9遺跡、50,174㎡を対象に実施しました。前年度(6遺跡・103,066㎡)と比較すると、3遺跡増、調査面積は半減しています。9遺跡の内訳は、通常の開発行為に伴う調査が7件、復興事業関連調査が2件で、調査地は3市1町1村に及んでいます。以下、調査成果を時代順に概観します。

### 縄文時代

木戸場遺跡・中平遺跡・二子城跡・間野村遺跡・平清水Ⅰ、Ⅱ遺跡で、溝状の陥し穴が見つかりました。内陸部、沿岸部問わず一般的に見られる遺構です。二子城跡からは、中期前葉頃の竪穴住居1棟が見つっています。

### 弥生時代

木戸場遺跡からは、中期頃の土器が比較的多く見つかりました。二子城跡では、後期後半の竪穴住居が2棟見つかりました。これらの住居から少し離れた場所で同時代のお墓と思われる土坑が1基見つっています。この時期の竪穴住居もお墓も調査事例は少なく貴重な事例となりました。

### 奈良・平安時代

平安時代に関わる調査は、間野村遺跡・中林下遺跡・明神下遺跡の各遺跡で行われました。間野村遺跡では、礫を丁寧に積み上げて造った煙道と煙出を持つ竪穴住居が見つかりました。人頭大の壺円礫が100個以上も使われていました。

奥州市胆沢若柳の明神下遺跡では、9世紀後半から10世紀前半の大規模な集落のあとが見

つかりました。今年度の調査では84棟の竪穴住居が見つかりました。調査は来年も継続され総計で100棟以上の竪穴住居になると思います。石帯と言われる服に装着する装身具や緑釉陶器や灰釉陶器など、一般の集落からはあまり出土しないような様々な遺物が出土しました。



明神下遺跡から出土した石帯

一方、奥州市水沢真城の中林下遺跡では9世紀中心の集落の調査が行われました。広範囲の調査にもかかわらず竪穴住居は2棟と極端に少なく、これに反して地面に柱を立てただけの掘立柱建物や多数の柱穴が多く見つかりました。これらの掘立柱建物跡は倉庫の役割を担っていた施設かもしれません。



間野村遺跡の礫積み煙道



中林下遺跡で検出された掘立柱建物跡



中世

北上市二子城跡では城域の西辺を画する、斜面頂部から南北に縦走する比較的大規模な堀跡が約120mにわたって検出されました。調査3年目の紫波町北条館跡では、16世紀後半代を中心とした城館跡と考えられていましたが、今年の調査で堀からより時代の古い青磁碗などが出土したことで、築城年代が15世紀まで遡る可能性が指摘されました。



二子城跡の西辺を画する南北の120mの堀

まとめ

全体的に遺構検出数・遺物出土量ともに多くありませんでした。また、古代・中世の遺跡で興味深い成果がありました。平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡、中林下遺跡、明神下遺跡は、翌年度も継続調査の予定です。

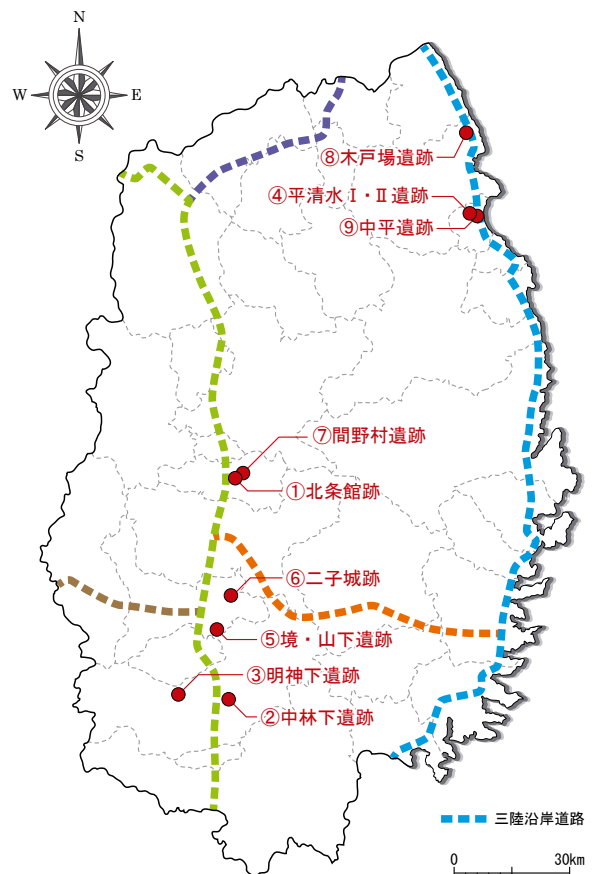
平成24年の後半期から始まった復興関連の

発掘調査は、今年度ですべて終了しました。南は陸前高田市から北は県境の洋野町までの間、足掛け9年に及ぶ調査で170遺跡、約750,000㎡の発掘調査を実施したことになります。これらの発掘成果は、百十数冊に及ぶ報告書にまとめられています。

● ● ● 埋蔵文化財センターの発掘調査遺跡一覧 ● ● ●

令和2年度 発掘調査遺跡一覧

No.	遺跡名	主な時代	調査期間	開発事業名	調査面積(㎡)
1	北条館跡 (紫波町)	平安 中世	4/8~ 9/3	北上川緊急治水対策事業	1,880
2	中林下遺跡 (奥州市)	平安 中世	4/7~ 11/30	経営体育成基盤整備事業 (真城南地区)	10,300
3	明神下遺跡 (奥州市)	平安	4/7~ 11/30	経営体育成基盤整備事業 (若柳中部地区)	12,000
4	平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡 (野田村)	縄文	10/16~ 11/26	農業競争力強化基盤整備事業 (泉沢・中平地区)	1,132
5	境・山下遺跡 (北上市)	縄文 平安	4/8~ 5/27	主要地方道一関北上線山下地区 地域連携道路整備事業	130
6	二子城跡 (北上市)	縄文 弥生 中世	4/9~ 8/31	北上市特定公共下水道 終末処理場	20,230
7	間野村遺跡 (紫波町)	縄文 平安 中世	9/1~ 11/13	主要地方道紫波江繋線星山地区 道路改良工事	1,400
8	木戸場遺跡 (久慈市)	縄文 弥生	5/7~ 6/25	三陸沿岸道路(久慈北道路)	2,900
9	中平遺跡 (野田村)	縄文 平安	7/16~ 8/7	三陸沿岸道路(久慈北道路)	202
計					50,174



注目された遺跡

二戸市 九戸城跡

近世

九戸城跡は、馬淵川によって形成された河岸段丘上に築かれた平山城で、昭和10年6月7日に国の史跡に指定されています。城郭の面積は約36畝で、本丸、二の丸、三の丸、若狭館、石沢館、松の丸の曲輪から構成されています。

本年度の調査は、二の丸大手と在府小路を繋ぐ土橋の年代確定と、構造の解明を目的として実施しました。確認された土橋の全長は約25m、通路の幅は約5mで、二の丸と在府小路を画す堀を版築状に埋め立てて構築していました。

また、土橋の東側には3～4個程度の築石が残っており、石垣が築かれていたことも判明しています。大きさが揃いない自然石を用いた野面積みと呼ばれる積み方で、西側からも栗石が検出されたことから、土橋の両面に石垣が築かれていたと推定されます。

これまでの発掘調査で、九戸城の再普請が二の丸に及んでいたことが判明しています。このことから、今回発見された土橋に築かれた石垣は、九戸城があらためて「見せる城」、「石垣をもつ城」として入念に築かれていたと評価できます。

二戸市教育委員会 柴田 知二



二の丸大手土橋から見つかった石垣

北上市 八天遺跡

縄文時代中期末葉～後期末葉

八天遺跡は縄文時代後期中葉を中心とする集落跡です。昭和43・44年、50～52年、平成20年の6次にわたって調査が行われ、特異な大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品などの重要性から、昭和53年に国史跡に指定されました。

史跡の本質的価値を再検討し、保存活用計画を策定するために、第7次調査を実施しました。

調査の結果、複式炉を伴う住居跡や貯蔵穴が多数見つかり、縄文時代中期末葉から後期前葉にかけて大きな集落が営まれていたことが分かりました。また、大形円形建物跡の南側隣接地では掘立柱建物跡が見つかりました。これは大形円形建物跡よりも前に建てられていたようです。柱間5mの4本柱で構成され、柱穴の深さは1.7mにも及びます。このことから、規模が大きく特殊な建物であったと考えられます。

以上の調査結果から、八天遺跡では縄文時代中期末葉～後期前葉にかけて集落が営まれ、後期中葉になると祭祀場および墓域として利用された可能性があり、遺跡の性格が転換したものと考えられます。

北上市教育委員会 岩田 貴之・工藤 美樹



新たに見つかった掘立柱建物跡

盛岡市

## 盛岡城跡

【 近 世 】

盛岡城は、初代盛岡藩主南部信直が慶長2年(1597)に築城を開始した、東北で数少ない総石垣(内曲輪が石垣で造られている)を志向した近世城郭です。昭和12年(1937)に国の史跡に指定されています。

今年度実施した第41次調査区は本丸南東隅に位置し、天守台の西側にあたります。城内の建物は明治7年(1874)に取り壊されましたが、かつて本丸南側に所在した「大奥」のうち、<sup>ながつぼね</sup>「長局」や<sup>おおく</sup>「湯殿」などの建物に伴う礎石や根石を発見しました。これらの遺構では、盛岡城の建物が存続した期間に数度の増改築が行われた痕跡が認められ、今回の調査でも数時期にわたる変遷が確認できました。天守に葺かれていた瓦や、祭祀儀礼の際に納められた陶磁器や鉄

製品、日常生活に用いられた多くの食器類の破片など様々な遺物が見つっています。

今後も調査を継続し、本丸地区の構造や内容を解明していく予定です。

盛岡市遺跡の学び館 今松 佑太



調査区東側全景(北東より)

平泉町

## 志羅山遺跡

【 12 世紀 】

志羅山遺跡は平泉町中心部に位置し、町の社会教育施設建設に伴い発掘調査を実施しました。

過去の発掘調査で、12世紀には毛越寺から東へ延びる東西方向の大路と、太田川北岸から無量光院・柳之御所方面へ延びる南北方向の道路があったことがわかっており、本調査区はこの交差点の南西にあたります。

調査では掘立柱建物跡、塀跡、井戸跡、汚物廃棄穴、溝跡等の遺構や、かわらけ、渥美・常滑等の国産陶器、中国産磁器、瓦、刀子、木製品等の遺物が見つかり、12世紀後半を主体とする屋敷地であったことがわかりました。

調査区中央で検出した掘立柱建物跡(1号建物跡)は、身舎の規模が梁間2間桁行5間の大型四面庇建物で南と北には孫庇が附帯し、古代以前の沢跡の上を整地した場所に建てられていました。この建物は宴会儀礼等が行われた格式

の高い建物と考えられます。

また、遺構の重なりからみて、12世紀中頃までは、調査区よりも西側に屋敷が広がっていましたが、後半には1号建物跡を中心とした空間が広がっていた様子がうかがえます。

平泉町教育委員会 鈴木 博之



調査区全景(上が北)



特集

## 地域とともに歩む 御所野遺跡の世界遺産登録への取り組み

令和2年は、御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録へ向けた取り組みにとって、もがきながらも、新たに大きな一歩を踏み出した一年となりました。

令和2年1月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の推薦書は、フランスのパリにあるユネスコ世界遺産センターへ提出されました。推薦書に盛り込まれた縄文遺跡群の「顕著な普遍的な価値」は、次のようにまとめられました。少し長いですが、そのままご紹介します。「本資産は、北東アジアにおける世界的にも稀な長期間継続した採集・漁労・狩猟による定住の開始、発展、成熟の過程及び精神文化の発達をよく表しており、農耕文化以前における人類の生活の在り方と精緻で複雑な精神文化とを示す物証として顕著で普遍的な価値を持つ。」

その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行が広がる中、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモス（ICOMOS）の現地調査に向けてリハーサルなどの準備が進められ、9月4～15日、縄文遺跡群の各遺跡において、現地調査が行われました。御所野遺跡では、9月15日、遺跡の保存管理のあり方や地域住民の関わりなどについて、現地調査が行われました。

この現地調査が行われるまでの準備期間中には、御所野遺跡のボランティア団体や世界遺産登録推進協議会の会員のみなさんをはじめ、子どもから大人まで多くの地域のみなさんが、清掃活動などに参加してくださいました。

現在、御所野遺跡には、4つのボランティア団体があり、各団体の会員のみなさんは、日常的に遺跡の保存や清掃活動、遺跡のガイド、体験学習の講師など、多岐にわたる活動を行っています。御所野遺跡を拠点として、ボランティアのみなさんが交流する場になっていることも大きな特徴の一つです。

令和元年に設立20周年を迎えた一戸町立一戸南小学校児童による「御所野愛護少年団」をはじめ、近年は一戸町内の子どもたちの学習活動やPR活動がととも活発に行われています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年および令和3年に審議が予定されていたすべての案件が、今年令和3年6～7月に予定されている世界遺産委員会で審議されることとなりました。「北海道・北東北の縄文遺跡群」も、この委員会で審議される予定です。

地球と人類の過去から大切に引き継がれてきた「地域の宝物」を、未来へ引き継いでいく取



結成20周年記念品贈呈式



中学生による清掃活動

り組みが「世界遺産」です。

わたしたちは、未だに終息が見えない新型コロナウイルス感染症を抱える社会に生きています。現在、そして未来の社会を考えると、自然とともに生きていた縄文時代の人々の知恵や

文化や、他人を思いやり、平和を愛する理念から、改めて、学ぶことが多いと思います。

御所野縄文博物館 菅野 紀子

## 福島県への派遣職員からの報告

東日本大震災の後、福島県では現在も復興に向けた調査が数多く行われています。今年度は(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターから(公財)福島県文化振興財団に1名が派遣され、発掘調査等の業務に従事しています。現地からの報告を紹介します。



### 下郷町栗林遺跡について

今年度、(公財)福島県文化振興財団に出向し、会津地方の下郷町にある栗林遺跡の調査に参加しました。縄文時代中期中葉から後期前葉にかけての竪穴住居跡が100棟近く見つかった大規模な集落遺跡で、会津縦貫南道路建設に伴う4年目の調査となります。全体で約1万㎡の発掘が進められており、このうち今年度は1,600㎡を対象に実施しました。

住居跡や土坑等が激しく重複する遺跡中心部の精査作業は困難を極めました。それだけではなく、岩手ではお目にかかることのできない巨大な複式炉や、その炉の片隅に大型石棒が直立していたり、出土する土器も関東地方や北陸地

方のものであったりして、毎日が驚きの連続でした。また、栃木県高原山産の黒曜石を使った石器が多数見つかる等、各地との交流が盛んな拠点集落だったことがうかがわれます。

調査は令和3年度で終了し、その後全体の調査成果をまとめる報告書作成に入るとのことです。4千年余り前にこの地で営まれた縄文人の暮らしぶりが明らかになると期待されます。

(公財)福島県文化振興財団遺跡調査部 高木 晃  
(公財)岩手県文化振興事業団より派遣)



調査区の様子



竪穴住居跡の作業状況 (縄文時代中期中後葉)



# 令和2年度 イベントの報告

## 復興発掘調査展 in 大船渡市

令和2年10月16日(金)から10月19日(月)の4日間、大船渡市の防災観光交流センターおおふなぼーとで復興発掘調査展を開催しました。埋蔵文化財センターは東日本大震災からの復興事業に伴い発掘した遺跡の調査成果を、順次各市町村で公開しています。大船渡市でも防災集団移転促進事業などに関連して遺跡の発掘調査を実施しました。今回は大船渡市と隣接する住田町で実施した調査に加え、岩手県教育委員会や大船渡市教育委員会が調査した遺跡の出土品も展示しました。



会場のおおふなぼーと

来場された方からは「教科書で見たような土器がこんなに身近なところでも発掘されていることに驚いた」「自分の地域に遺跡が多いことは聞いていましたが、実際の成果を見せてもらったことは感慨深いです」などの感想が寄せられました。



内田貝塚出土骨製品

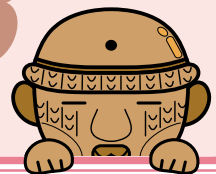
## 埋蔵文化財公開講座 遺跡報告会・埋蔵文化財展



高田和徳先生の講演

令和3年1月23日(土)、埋蔵文化財公開講座・遺跡報告会をいわて県民情報センターアイーナ小田島組☆ほ〜るで開催しました。第一部の公開講座では「生きている遺跡・つなぐ遺跡」と題して一戸町御所野縄文博物館館長の高田和徳先生にご講演いただきました。第二部は発掘調査遺跡報告会を開催し、今年度発掘された遺跡の調査成果を発表しました。また、5階のギャラリーアイーナでは埋蔵文化財展を開催しており、報告された遺跡から出土した遺物が展示され、訪れた方々が見学していました。

これらの催しは、来年度も同じころに開催する予定です。詳細が決まり次第、当センターのホームページや関係機関に掲示されるポスターでご確認いただけます。



発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11-185  
電話 : 019-638-9001  
E-Mail : i-maibun@echna.ne.jp  
URL : <http://www.iwate-maibun.jp/>  
発行日 令和3年2月26日  
印刷 東京カラー印刷株式会社